

令和 8 年度 県立友部東特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ◆「夢や希望」に向かって、自分らしく成長できる学校 ◆信頼とつながりを大切にする学校 ◆安心・安全を基盤に、子供が主役として輝く学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○チャット機能を活用したリアルタイムな情報共有により、迅速な問題解決体制が整った。</p> <p>○授業での ICT 活用が定着し、児童生徒の学習意欲や関心の向上が見られた。</p> <p>○Co-MaMe 等のアセスメントツール導入により、客観的な実態把握の試行が開始された。</p> <p>◇CS の活動が「学校から地域への協力依頼」に留まっており、児童生徒の主体的参画までには至っていない。</p> <p>◇ICT が「教員の提示用」としての活用が主であり、子供自身の思考や表現の道具としての活用には個人差がある。</p> <p>◆ICT（ワークフロー等）を徹底活用し、事務作業を極限までスリム化して「子供と向き合う時間」を創出する。</p> <p>◆業務連絡だけでなく、教職員が本音で語り合える「心理的安全性の高い組織づくり」を推進する。</p> <p>◆アセスメント結果を「個別の指導計画」や「日々の授業改善」に組織的に連動させる仕組みを構築する。</p>	キャリア教育の充実	<p>①基本的な生活習慣の確立を基盤とし、自律的な生活態度を養う。</p> <p>②小・中・高を通じた系統的なキャリア発達を促す「切れ目のない支援」を推進する。</p> <p>③学校運営協議会へ生徒が参画するなど、地域資源を最大限に活用した体験活動を充実させる。</p>	
	指導・支援の充実	<p>④オンラインと対面をハイブリッドに活用し、個々の病状に応じた学習保障を徹底する。</p> <p>⑤ICT（Canva や AI 等）を児童生徒自身が活用し、「分かる・できる」を実感できる授業を展開する。</p> <p>⑦自立活動の視点を取り入れた教科指導により、困難を克服する力を育む。</p>	
	専門性の向上	<p>⑧Co-MaMe 等のアセスメント結果を全教職員で共有し、組織的な個別支援を強化する。</p> <p>⑨医療・福祉機関との定例的な連携会議を通じ、最新の知見を指導に反映させる。</p> <p>⑩教職員のキャリアステージに応じた、実践的かつ主体的な校内研修を定例化する。</p>	
	センター機能の強化	<p>⑪オンライン相談窓口を「心の居場所」として定着させ、不登校傾向にある児童生徒等への支援を広げる。</p> <p>⑫県内唯一の病弱特別支援学校として、培った専門性や事例を積極的に地域へ発信する。</p> <p>⑬ブログや SNS 等、多様なメディアを活用した戦略的な広報活動を展開する。</p>	
安全・安心の確保	<p>⑭毎日実施する「心の健康観察」のデータを活用し、いじめの未然防止と早期対応を徹底する。</p> <p>⑮チャット・ワークフローの導入を完遂し、事務作業の大幅な効率化を実現する。</p> <p>⑯「楽しく仕事をしよう」を合言葉に、対話を軸とした風通しの良い職場環境を創出する。</p>		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	ICT活用による「子どもが主役」となる授業改善と、教職員の対話時間を創出する業務効率化を継続して実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画の進捗管理（PDCA）を月1回、企画会で実施する。 チャットツール等による非同期の情報共有を励行し、対話のための時間を意図的に確保する。 	⑤⑦⑧ ⑮⑯		
教職員の育成及び指導・監督	教職員が本音で語り合える「心理的安全性の高い組織」を構築し、病弱教育の専門性向上と若手・中堅層のリーダーシップ育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「楽しく仕事をしよう」を合言葉に、部等の枠を超えた対話の場を創出する。 医療、福祉との合同研修会を企画し、多職種連携による専門性の継承とアップデートを促進する。 	⑨⑩⑯		
対外活動	CSを深化させ、地域、医療、福祉との「切れ目のない支援体制」を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> CSを活用し、外部講師やボランティアを積極的に招き、キャリア教育の充実を図る。 ICTを活用し、オンライン相談窓口や本校の専門性を周知する広報活動を展開する。 	①②③ ⑪⑫⑬		
コンプライアンス確保	不祥事防止の校内体制を強化し、教職員一人一人が高い当事者意識をもって教育活動に専念できる「信頼される学校」を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス推進委員会を核に、自ら問いを立て、「自分事として考える」対話型研修を実施する。 管理職による日常的な言葉かけと、風通しの良い職場環境を通じて、問題を一人で抱え込ませない組織文化を醸成する。 	⑩⑭⑯		
働き方改革	ICTの徹底活用と業務のシンプル化を断行し、教職員が子供と向き合う時間や教育の質を高めるための対話時間を創出する。	<ul style="list-style-type: none"> チャットツールを活用した非同期コミュニケーションを定着させ、形骸化した会議を精選・短縮する。 定退日の設定と管理職による退庁の率先、ワークライフバランスを重視した校務分掌の適正配置を行う。 	⑮⑯		
ICT活用	ICTを「児童生徒が主役となって思考・選択・決定するための道具」へと進化させ、病弱特支ならでの学びの保障を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> AI活用など、最新のデジタルスキルを共有し合う「ミニ研修会」を教職員間で継続実施し、実践事例をブログ等で外部へ発信する。 オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド指導を推進し、入院・通院等による学習空白を最小限に抑える体制を確立する。 	④⑤		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない